

<保護者様にお渡しする日々のアセスメントレポート例>

児童発達支援・放課後等デイサービス

	強化子 (動機づけ)	アカデミック(5教科)	視覚運動余暇(5教科以外)	コミュニケーション	スクールスキル・学習基盤	コメント
○月○日Aさん (児童・軽度)	ポケモンのフィギュア、恐竜、動物、ポケモン探しの本	数字マッチング(++)、数字の命名(PP+)	ぬり絵(鬼)、紙を丸める、投げる、積み木配列模倣(4個+)、2×3個PP、8個-PP)、間違ひ探し(見つける+表出P)、シルエットマッチング(9択)+、	機能特徴(日用品&乗り物&動物)、動物鳴き声表出+、形容詞(長短)受容&エコー、シークエンスエコー&表出、	トークン(3個)、着席	トークンは説明をしても「なんで?」が続いたが、3回目には理解し、「3個やったから?」で「あそぶ!」と笑顔だった。乗り物の走る場所は表出で答えることができた。シークエンスでエコーと表出を混ぜながらお話。注目すべきところをプロンプトしながら楽しくお喋りができた。節分の鬼退治は、最初は戸惑っていたが、お友達と一緒に追いかけて投げることができた。
○月○日Bさん (児童・中重度)	外を見る・おんぶ・トーマス貯金箱・ドーナツ・電車を見る		ブットイン系(タグ・コイン)・ペグ大・スナップ外し・シール・色分け・ビザ重ね・キューブマッチング(3色)+ +・絵合わせカード(正位置×90度)・パズル2P・数字型はめ・絵本(ふわふわふー)	音声表出(赤・青・黒・ねーね・ない・チューチュー・ブー・チェンチェ・ハーちゃん・ちゅんちゅん・ジュージュー・アムアム)・名詞受容(鳩&カラス・雀&鶏・コップ&太鼓&ライオン・ぶた&かに&ネズミ)・色表出(「これ何?」「赤(青)」)・要求のハンドサイン・ままごととごっこ	着席・働きかけに応じる・物を使った動作模倣(マラカスを振る・コップで飲む)	来所後着席につなげたのは、今回もドーナツだった。キューブ積み木マッチングでは、黄色が入る時は黄色を最初に端に置きたがる傾向があるので、黄色を最初に手渡し端に置けると、3ピース全てマッチングに成功。黄色がなければこだわりは発動しなかった。物を使った動作模倣は、今回初めてコップを出した。コップを口に当てている指導員を見て、本見も模倣して同じ行為ができた!
○月○日Cさん (小学生)	バスケットボール	カタカナ、漢字、わり算、論理国語(要約)、音読	運動、色塗り(豆まきイラストの豆)、	今日の出来事を話す	着席・挨拶	カタカナは2X2cmのマス目を意識して、書くことができていた。要約は、自力では難しいが、いつ・どこで・だれが・なにをした、という枠組みを提示することで取り組むことができた。運動は初めての「どーん、じゃんけんポン」をした。ルールを理解するところからだったが、こちらの短い説明を聞き正しいやり方で行うことができた。豆まきを予告していなかったためびっくりさせてしまったが、何とか鬼退治をすることができた。バスケットボールは楽しくしてはいるが以前に比べ若干食いつきが弱い為他の遊びも開発したい。

* <上記記号の説明> +:成功、 P:介助して成功、 -:失敗

放課後等デイサービス (トータスキッズα)

日付	今日の体調 (本人記入)	今日やったこと (本人記入)	今日の感想 (本人記入)	先生からのコメント (先生記入)	保護者連絡 (先生記入)
20○○年○月○日 Dさん	元気	スライド作り (グループでの 内容決め、役割 決め、相談しな がら作る)	今日は、スライド作りでAちゃんと一緒にやりました。 今日やったのは、1年間やったことです。 僕は、アワーオブコードと自己紹介動画です。 今途中なのが、UNOです。なぜかという終わりだからです。	グループでの活動が始まったね!2人だけだから、お互いの意見を尊重し合いながら協力して取り組めるといいね!2人の作品だから、自分がやりたいなって思ったことがあったら、お友達に聞いてみることも忘れずにね!もし、お友達が困っていそうだったら、「手伝おうか?」とか、「分からないことある?」って聞いてみてね。それで「手伝って?」って返事だったらぜひ、教えてあげてください☆	お友だちとのグループ活動が始まりました。スプレッドシートの使い方も、すっかり慣れてきて、自分の好きなキャラクターを取り込みながら紹介文を書くことができていました。グループワークでは、お約束通り相手の意見を聞くことができましたが、自分の中で「こうしたい」の想いがあるようで、自分の思っている方向にいかない場面では、「えっ?やるの?ほんとに?」など葛藤している様子が見られました。人の意見と自分の気持ちの折り合いをつける練習になっているようです。作業に入ってから、お友達が困っているときに指導員が声をかけると優しく教えてくれました。そんなときの声かけなども支援していきます。

保育所等訪問支援

未就学

施設機関名	○○幼稚園
対象児	Sさん
訪問日	○○年○○月○○日

時間	場面/活動	記録
10:08	年長クラス	先生におんぶ。お当番さん、発表。前で抱っこ。先生、そのまま指導(スルー)。身支度のチェックの話。 S、子どもたちの発表見ている。 お当番さんが、子どもたちをチェックしに行く。 カバンの荷物を先生と一緒に開けてチェック。 先生、トータスキッズ高橋先生を紹介する。 S「知ってる。トータスキッズの先生」 先生にしがみついている(スルー) S、先生のやること見ている。 先生水着の説明。 S、ピアノの後ろにいる。椅子に乗っている。黒板いじっている。自分の頭叩く。 説明続く。
10:13		黒板の木屑めくる。歩いて出る。黒板のマグネット外して、右下に移す(10個ぐらいやる→退屈?)
10:15		先生「Sちゃん、水着着替えよ」
10:18		Sの手をとって、Sの席に移動。

10:22		S、友達の A ちゃんと話ししながら着替え。着替えたものの自立して畳む（先生ついていない）。座って着替え。 全部脱いでから、上着替える。チャック OK。 S「S、着替え終わった。」 A「ねえ、S ちゃんここやってくれない？」 友達の肩直してあげる。A「ありがとう」 袋に入れる。 外の用務員の先生に手をあげてアビール。 着替え&片付け完了。 ピアノのところに行く。 A ちゃんに誘われ、外に帽子取りに行く。 先生「準備体操しますよ」 席横で準備体操。 ジャンプ、肩回し等、上半身見えるものは概ね○。 左右前後の伸脚 X。 1,2,3,4 などの掛け声言えている。 「お話始まる 5 秒前」 先生「できそう？」S、うなづく。 あくび。 注意 2 項目。先生見て聞いている。 廊下に移動。座る場所がなく立っている。柵でびよんびよん。 <以下省略> 終了
10:24		
10:28		
10:29		
10:33		
10:36		
12:58		
<全体の様子> 初回の行動観察。課題はあるものの、全体通しては s さんとしてベストの状態だったと感じました。 課題に関して。 まず、自分のやる事が明確でない時間は苦手だと言うこと。朝の会にて、先生の話聞く、お当番さんの話を聞くなど、自分の活動がない時間に、椅子の上に乗る、先生の背中に乗る等の行動が見られました。一方で、この日とても良かったのは、そうした苦手な時間を自分なりに工夫はしようとしていたところです。例えば、朝の会はマグネットを左上から右下に動くという行動、昼食までの待ち時間は、ドールハウスで人形と道具を上から下に移す、昼食後は折り紙を折って絵を描くという代替行動を作り出していました。危険・問題に見える椅子に乗ることも、適切な折り紙を折って絵を描く行動も、本人にとっては時間を潰す代替行動。よって適切な代替行動とそれのできる環境を用意することが一つ策としてはあるかと思います。 準備体操では、肩回しなど上半身を使った動きは概ねできていましたが、伸脚等ができていませんでした。これは、後ろで見えない、他の園児よりやっている回数が少ないことなどから、正しく学習する機会が少なかったというのもあるかもしれません。この辺りのできていないことを行動観察によって洗い出し、1.事前に予測できている S さんが未達の行動を園の先生が近くでモデリングする（近くの仲良しお友達にお手伝いいただくのも手です）、2.トータスキップや家庭で個別に支援するといったことが考えられます。園でよくでる活動できていないものを、できるようにすることで、この先生・この場所にいればわからないことをサポートしてくれる & できる！という安心感・自己肯定感に繋げ、登園サポートに寄与できると考えられます。 社会性に関しては、自分から人に関わるといことには積極的ではないですが、人から話しかけられると対応できるというのが平均値。これが、1 日の中でも、朝の会のようなストレスの高い（苦手が多い）時間帯では、できるだけ接触を持たないような位置（ピアノや先生の近く）にいる一方、好きな活動・失敗体験が少ない状態が続くと、人と関わるハードルが下がり、ご飯の時間帯などは自分から話しかける回数が増えていたり、周りや自分の苦手な活動の受け入れの許容度も高まっている傾向が見られました（この日、原因はわからないのですが、お友達に対して、「ごめんない」と言っていました。これがフェアな対応かどうかは別として、そうしようとしたの素晴らしいと思いました）。 この日のように、落ち着いた状態でクラスにいることが積み重ねられると、学習の機会も増えるように思われます。		

小学校

施設機関名	〇〇小学校
対象児	T さん
訪問日	〇〇年〇〇月〇〇日

時間	場面/活動	記録
9:32	支援級	支援級に入ってきて座る（とてもスムーズ） 周り静かではないが、一人で分度器で角度を測る問題をやっている。 線に合わせる・角を合わせるという微妙なコントロールは自力では難しいが取り組みうとはしている。1 割ぐらい自力。あとは、先生がおさえて T さんが読み取り、書き入れる。 U 先生が、高橋（トータスキップ訪問支援員）に状況を説明。T、うしろ少し振り返るが、また取り組む。 分度器の問題 2 枚目。 U 先生が来てから問題やる。 U 先生がいなくても自分で合わせようとする。 U 先生「すごいすごい！角合わせて。そうだそうだ！」 U 先生「○が合わせられるようになってえらかったです。」 U 先生「昨日の計算の続きをやってほしいです」 T、プリントを取り出す。 3 桁 X 3 桁の掛け算（繰り上がりあり）。プリントでやろうとする。手が止まる。 U 先生、マス目の入ったホワイトボードに問題を書き入れる。繰り上がりの数字のメモ書きの書く場所を、手をとって一緒にやる。ここ とここを足して等、ペンで指しながら解説。 U 先生「7 + 8 は？」頭で計算し 1 5 を導き出す。 U 先生、高橋に状況説明。T、スケジュール見ている。立って固まっている。 U 先生、2 桁 X 2 桁の問題を用意。 2 問やって止まる。また 2 問やる。 消しゴムいじる。 U 先生横に行く U 先生「時計みて。タイマー 6 分。がんばれる？」ひ「うん」 U 先生「がんばれ！」 8 問やる。T「できました」（タイマーより前に終了） U 先生「じゃあ、カード見ていいよ」 生徒 A が紐通し仕上げて、U 先生に見せる。 U 先生「(A に) すごいっ！」T、A を見る。
9:35		

<全体の様子> * 初回の行動観察において、学校と協議し主に下記の 3 点の工夫・変更を行った 1.偏食が強い児童に対し給食時間の工夫（通常給食を少しずつ通常級で一食べられるものが入ったお弁当を持参。別室で食べる） 2.教室の変更（支援級高学年クラス→支援級低学年クラス）、 3.先生の変更（支援級が初めての先生→これまで担当したことがある先生）

2回目の行動観察。今回から、Tさんの担当がU先生に変わったとのこと。とても落ち着いて活動ができていた。

前回との差として、おそらく一番大きいと思われるのが、高学年のクラスから低学年のクラスに変わったことで、Tさんの苦手とする音と人のタイプの圧迫感の負荷が下がったこと。次に、Tさんが慣れており、且つ、支援者としても癖を知っているU先生の指導だというのも挙げられる。例えば、3桁X3桁の筆算でつまづいた時、まず、マス目あるホワイトボードで、先生が手を取りながらやりかたと一緒に確認する支援は、エラーをさせないとても良い方法。加えて、身体介助は安心している人しか受け入れられないことに加え、やって成功体験を積むから、また安心度が増す。3桁X3桁が難しいと判断して、すぐ2桁X2桁に負荷を下げて成功体験を積ませたのも、学校に安心して来れる要素につながると思われる（下記に示している給食の支援も素晴らしい）。こうした複合的な要素で、入室もスムーズで、取り組み姿勢も上がったと思われる。また、U先生が高橋に随所で説明していても、そこで崩れることがないのも、安定している証拠かと思う。

取り組みでは、分度器など間違うのが怖いと思った時は先生が来るまで待っている傾向がみられたが、2桁X2桁の掛け算など、ある程度自力でできるものは、やる気さえあれば自立して取り組んでいる。

繰り上がりのある掛け算は、3桁X3桁の時は、仕組みがわからないように見えたが、2桁でいくつかやり出すことで、思い出せばできていた。7+8や掛け算など、頭の中で数字を組み立てて回答することも9割方できていて、良い意味で力がついているのが確認できた。

これを積み重ねていけば、学校も安定するのではと思われるとてもよい内容の支援でした。